

2024年10月期（第43期）第1四半期 決算報告補足資料



株式会社システム デイ

代表取締役社長 堂山 遼

2024年3月18日

 **売上高 921 百万円**  **やや 計画未達**

計画比： △ 23 百万円 （ 97.6%）

前年比： △ 53 百万円 （ 94.5%）

実質的にはほぼ計画通り推移したが、やや予算に届かず。

 **経常利益 115 百万円**  **大幅 計画過達**

計画比： + 47 百万円 （171.1%）

前年比： △ 52 百万円 （ 68.7%）

2Q以降売上予定の案件の仕掛の影響で、計画を過達。

2024年10月期（43期）第1四半期 決算の概況

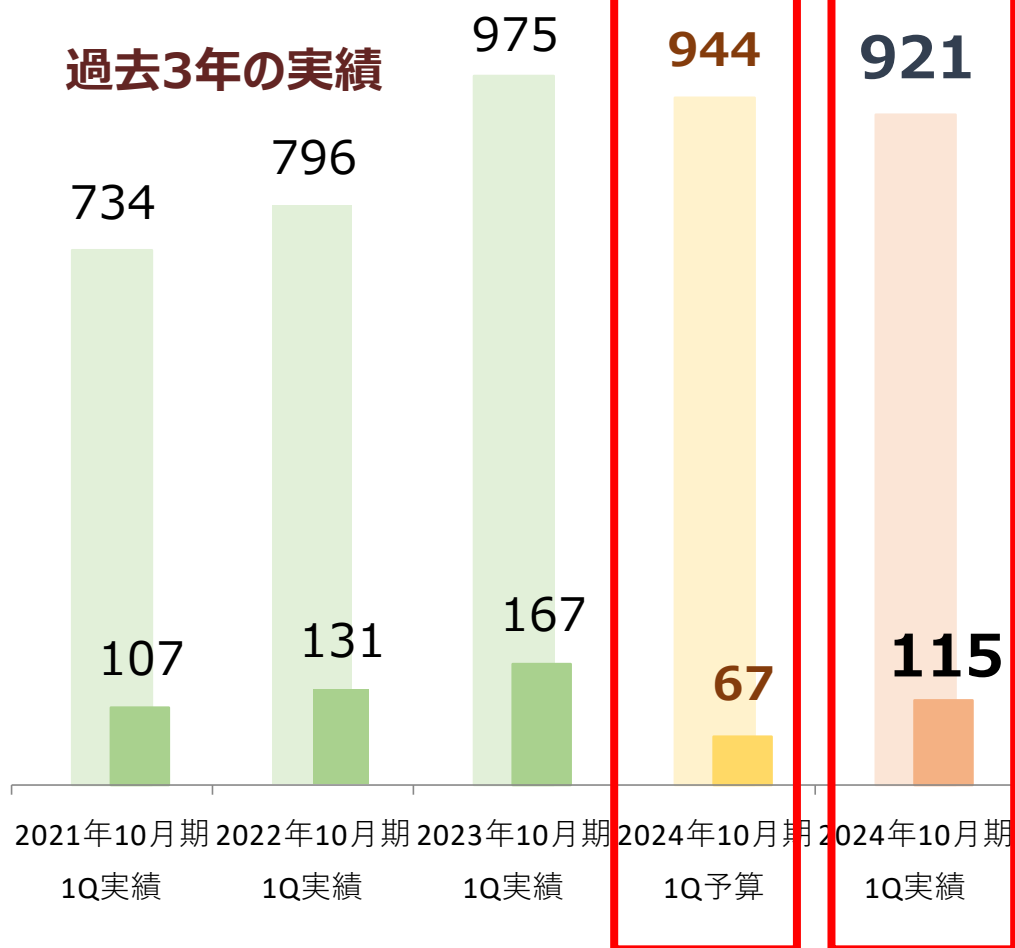
証券コード
3804



【第1四半期業績推移】

（単位：百万円）

■ 売上高 ■ 経常利益



2024年10月期は、計画している案件が比較的下半期に偏っており、**当上半期は前期実績よりも少ない売上高・利益を計画**している。

前年第1四半期は、期初より案件を積み重ねて例年より好調な滑り出しであったが、当第1四半期では、一部大型案件の検収時期が遅れることになり、それに伴い**売上高については計画を少し下回る**ことになった。（実質的には、ほぼ計画通り）

逆に当該案件を始めとする仕掛増の影響、及び利益率の比較的低い仕入商品売上が少なかったことが要因となり、**営業利益は計画を上回って推移**することになった。

■ 2024年10月期第1四半期までのトピック

証券コード
3804



○2024年10月期は、計画している案件が比較的下期に偏っており、第1四半期及び上半期は前期実績よりも少ない売上高／利益を計画している。通期での計画達成を目指して、着実に新規案件の獲得、ストック収益の積上げを図っている。

○2024年10月期第1四半期は、例年同様大きな案件の動きのある四半期ではなかったが、前期から仕掛けていた案件の着実なクロージングやストック売上の積上げ等により、概ね計画通り順調に推移した。特にクラウド売上の積上げが大きく、ストック収益拡大に寄与した。

○公教育Sは、比較的大型の案件が事務手続きの関係で第1四半期に検収作業まで終わることができず、売上が計画をやや下回ってしまったが、来期以降に予定している大規模案件を含む複数の営業対応中案件があり、引き続き好調を維持している。

小中高校 校務支援クラウドサービス
School Engine
スクールエンジン

○ウェルネスSは、『Smart Hello』の引合いが引き続き好調で、計画を上回る勢いで受注を積上げている。一方で、比較的单価の大きい『Smart Helloチケット』がまだ計画している出荷に届いていないため、事業部全体の業績面では苦戦している。



Smart Hello

○「端境期」の公会計Sは、新PKG『公有財産管理システム』の引合いが増えつつあるが、まだまだ計画には届いていない。学園Sは、引き続き着実に小中規模の案件を獲得して、概ね計画通り推移している。ソフトEも着実に推移。

 学校事務トータルシステム
Campus Plan

○社長交代、次世代幹部の新事業部長登用等により、5年後、10年後も成長し続けることができる組織編成に着手。新しい、また柔軟な視点・発想で競争に打ち勝っていく。

■ 中期計画『システム ディ強靱化計画』

証券コード
3804



< システム ディ 経営理念 >

「急激に変化する情報社会において、真に付加価値の高い情報とそのソリューションを提供することによって、より豊かで創造的な情報社会を実現してまいります。」

そのためには、よりシェアを拡大、その実績をベースにより多く潜在顧客にサービスを訴求し、業界における知名度を向上させ、**社会への影響力がより大きい会社へと成長**させていく。

これを実現するために、シェア拡大と並行して会社の『インナーマッスル』を鍛える。社内（社員や設備）への投資を強化し、**大企業として高度な組織体制**を作り、システムベンダーとして強い技術者集団を形成していく。

そして、その延長線上に**上場企業としての次のステージへの挑戦**を具体化するというベクトルを見据えて、**会社のさらなる強靱化**をはかる。

『第一次 システム ディ強靱化計画』 飛躍に向けての体力づくり (2023年10月期 ～ 2025年10月期)

1. よりシェアを拡大し、各事業をさらに強靱化する
 - ①シェア拡大、ストックのさらなる積上げ、
 - ②強い技術者集団の形成、
 - ③無駄なコストの徹底削減
2. ワクワクさせる会社になる
 - ①圧倒的シェア獲得を目指す、
 - ②新規事業の立ち上げ、
 - ③社会貢献・地域振興
3. 社員、ステークホルダーと共に成長する
 - ①人事制度高度化・福利厚生強化、
 - ②株価対策・IR強化、
 - ③「健康経営優良法人」認定取得

『第二次～ システム ディ強靱化計画』 次のステージへの挑戦を意識した事業拡大